はじめに

早稲田大学は、学部によって試験時間や出題傾向、レベルもバラバラです。各講で、「取り上げた題材の学部」と、「それに近い傾向の学部」の詳細説明をしていますので、参考にしてください。学部によっては、古文と漢文が大問で別々にあり、独立問題となっている学部と、「早稲田特有の古漢融合文」として、一つの大問中に古文と漢文をいっしょに問う学部があるのですが、どちらにしろ（＝「古漢融合文」であれ）、実質は「古文と漢文は別物になっている場合が多い」と言えます。よって、本講座では、1～4講までを「古文」、5講を「漢文」対策として構成しています。もちろん、「早稲田特有の古漢融合文」というものが、どんなものなのかも講義中に説明しています。最初に述べたとおり、学部によって傾向やレベルも様々ではありますが、「早稲田独特の古漢融合文」に慣れるためにも、志望学部以外の古文の過去問を実施することも決して無駄にはなりません。もちろん、自分が一番行きたい学部の過去問を重点的にするべきですが、万一それが終われば、さらに傾向が近い他学部の過去問から解いていく練習も必要です。本講座で第一志望の学部の傾向をしっかり掴み、合格を手に入れるよう一緒に頑張りましょう！

＊本講座は「文法」・「読解のルール」・「句法」が理解できていることを前提に講義をしています。

予復習・授業の受け方について

各講の動画を見る前に、必ず該当講の予習をすること。予習が終われば、時間をあけずに該当講の動画を見て下さい。どうしてその解答を選んだのか、自分で根拠を覚えている間に見ることが重要です。講義を見終えたら、復習を必ずすること。間違えた問題があった場合は、「なぜ」間違えたのか、その原因になるところをきちんと潰して、次回同じような問題が出たときには必ず解けるようにしましょう。「復習問題」がありますが、授業で扱っていない問題がたくさんあるはずです。授業で扱っていないものは、その講で取り上げた学部の他年度の過去問や、詳細説明をした学部の過去問ですので、「復習問題」というよりは「チャレンジ問題」という位置づけで解いてください。もちろん解説があるので、実施後にきちんと読むこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　『浜松中納言物語』　商学部……p. 3
第二講　（出典情報なし）　法学部……p. 10
第三講　『源氏物語』　教育学部……p. 19
第四講　『たはれ草』　政治経済学部……p. 27
第五講　漢文対策……p. 36

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講『浜松中納言物語』　商学部

次の文章は『浜松中納言物語』の一節である。中納言は亡き父が唐土の皇子に転生していることを知って、唐土に渡った。これを読んで、後の問いに答えよ（**問十**は不要）。

后のおはすると、ことごとなく見れば、御年二十ばかりやおはすらむとおぼえて、御顔のやうたい、細くもあらず、ふくらにもあらず、よきほどなるが、中すこし盛りたる心地して、御色の白さは、（注）はりせらむといふとも、これにはまさらざりけむとおぼゆるに、[1]あいぎやう、いみじくにほひかをりて、眉ものよりけだかく見なし給ふに、くちびるは丹といふもの塗りたるやうに、いささかもねぢけたるところなく、あたりまでにほひて、髪上げうるはしき御さまにて、のどかにながめ出でつつ琴を弾き給ふ。この世にかかることを見るやと、あさましきまで[2]おぼゆ。

日本の人は、ただうち垂れ、額髪（ひたひがみ）も縒（よ）りかけなどしたるこそ、わがかたざまに、なつかしくなまめきたることなれと、思ひ出づるに、[3]うるはしくて、簪（かむざし）して髪上げられたるも、人がらなりければ[a]にや、[4]これこそめでたく、さまことなりけれと見るに、ものの音さへ世に知らず聞こゆるに、若き女房七、八人ばかり、天降りけむ乙女の姿かくやと見えて、菊の花もてあそび

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

つつ、(注)「蘭蕙苑(らんくゑいゑん)の嵐の」と若やかなる声合はせて誦(ずん)じたる、めづらかに聞こゆ。御簾のうちなる人々も、「この花開けて後」と口ずさび誦ずるなり。ことに男子は歌詠むめるを、女はえ詠ま[b]ぬにや、花を見ても文を誦じ合へるはと、知らまほしきに、后、御簾をおろして入り給ひぬ。［X］なかなか[c]に、半ばなる月を見る心地するに、え堪へず花のもとにあゆみ出でたるを、いたうあきれおどろきたるけしきもなし。すこし、はた隠れつつ[5]ゐたるところに、花を取りて立ち寄り給ひて、

[6]ふるさとを恋ふる心を忘るるは[7]この花見つる夕べなりけり

と、こころみに言ひかけたれば、団扇(うちは)さし出で、ただ待ち取るほど、わが世の人にことならず。

枯れでさはこの花やがてにほは[d]なむふるさと恋ふる人あるまじく

と答へたるけはひ、[8]言はぬにはあらざりけりと、をかしくおぼさる。

皇子出で給ひ[e]ぬれば、ゐなほり給ひぬ。「おもしろき夕べなり」とて、御琴ども取り出でて賜はせたる。ありつる御面影のめでたさは、名残のにほひまで、わが身にしみぬる心地して、琴の音のおもしろささへ耳につきつつ、かき立つべきかたも、[9]おぼえず。后も御簾のもとにて、つくづくと御覧ずるに、よろづめでたくすぐれたりける人かな、この人帰りなむのち、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

見ずなり f なむこそあはれなれと、人知れず涙落ちておぼされけり。

（注）

はりせらむ…前漢の成帝の后、班婕妤（はんしょうよ）のこととされる。

「蘭蕙苑（らんくゑいゑん）の嵐の」…『和漢朗詠集』に載る菅原文時の詩句。

問一　傍線部1「あいぎやう、いみじくにほひかをりて」はどのような様子を述べているか。最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　たきしめた香りが部屋中に漂って魅力的な様子。

ロ　愛らしい顔が高貴で、いかにも后にふさわしい様子。

ハ　理想的な女性が可愛らしい声をあげて笑っている様子。

ニ　こぼれるばかりの魅力が照り映えるように表れている様子。

ホ　美しい女房たちの香りが混じり合い、すばらしい香りとなった様子。

問二　傍線部2「おぼゆ」、5「ゐたる」、9「おぼえず」、の主語をそれぞれ次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　后　　ロ　皇子　　ハ　中納言　　ニ　女房たち　　ホ　唐土の男性

2＝　　5＝　　9＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部３「うるはしくて」の意味として、最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　気高くて　ロ　若々しくて　ハ　輝いていて　ニ　可愛らしくて　ホ　きちんとしていて

問四　傍線部４「これ」が指すものとして、最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　琴　ロ　簪　ハ　后　ニ　女房　ホ　中納言

問五　空欄 X に入るものとして、最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　あかず　ロ　うれしく　ハ　あはれに　ニ　なつかしく　ホ　つきづきしく

問六　傍線部６「ふるさと」が具体的に指す語を本文から抜き出して記せ。

問七　傍線部７「この花」にたとえられているのは何か。最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　琴　ロ　后　ハ　団扇　ニ　皇子　ホ　女房たち

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　傍線部８「言はぬにはあらざりけり」はどういうことを述べているか。最も適当なものを次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　唐土の女性は和歌を詠むのだった。
ロ　唐土の女性は漢詩が不得意だった。
ハ　唐土の女性は口でいうほど積極的ではなかった。
ニ　唐土の女性は不吉なことを口にしないわけではなかった。
ホ　唐土の女性は声に出さず書き記すことで和歌を詠むのだった。

問九　傍線部ａ～ｆについて、文法的に正しい組み合わせを次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　ａ「に」とｃ「に」が同じ。
ロ　ｂ「ぬ」とｄ「な」が同じ。
ハ　ｂ「ぬ」とｅ「ぬれ」が同じ。
ニ　ｄ「な」とｆ「な」が同じ。
ホ　ｅ「ぬれ」とｆ「な」が同じ。

問十　二重傍線部「この花開けて後」は『和漢朗詠集』からの引用であるが、元々、唐の漢詩人元稹が作った、次の漢詩（本設問では省略）をふまえている。この漢詩を読んで、後の（１）～（３）の問いに答えよ（省略）。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　復習問題

①「つきづきし」の意味として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　仰々しく　　ロ　毎月来客があり　　ハ　しっかりとしていて

ニ　につかわしく　　ホ　こぢんまりとしており

②「いと竹のわざ」の意味として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　裁縫の技術　　ロ　竹細工を作る技術　　ハ　造園の技術

ニ　竹刀を使っての剣術　　ホ　笛や三味線の演奏技術

③次の和歌Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの三首中に見出される全ての活用形の活用語のうち、未然形はいくつあるか。次の中から一つ選べ。

Ⅰ　よもすがら契りし事を忘れずは恋ひむ涙の色ぞゆかしき

Ⅱ　朝倉やきの丸殿に入りながら君に知られで帰るかなしさ

Ⅲ　朝倉やただいたづらに帰すにも釣りする海人の音をのみぞ泣く

イ　なし　　ロ　一つ　　ハ　二つ　　ニ　三つ　　ホ　四つ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「いよいよわするる事なくて、…」の傍線部と文法上同じ働きのものを、次の中から一つ選べ。

イ　草といへるは、むかし…
ロ　親うせにけるのち、…
ハ　生きたる親などに…
ニ　心におぼゆる事は…
ホ　草とは書けるなり。

⑤「末の世にも、集などにも入りなむ」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　係助詞
ロ　終助詞
ハ　動詞の一部＋推量の助動詞
ニ　強意の助動詞＋推量の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

テキスト解答・解説

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第一講】

〈模範解答〉

問一　ニ　　問二　2ハ　5ニ　9ハ　　問三　ホ　　問四　ハ　　問五　イ
問六　日本　　問七　ホ　　問八　イ　　問九　ホ

〈現代語訳〉

后がいらっしゃるのだと（思って）、（中納言は）他のことは頭になく一心に見ると、（后の）お年は二十歳ぐらいでいらっしゃるだろうかと思われて、お顔の作りは、細面でもなく、ふくよかでもなく、ちょうどよいぐらいのお顔の、中ほどが少し盛り上がっている感じがして、お顔の色の白さは、（あの色白だったという）班婕妤といえども、この方よりはまさっていなかっただろうと感じられ、（その上、）こぼれるばかりの魅力が、たいそう照り映えるように辺りに漂い立って、眉が誰よりも気高いと（中納言は）御覧になるが、唇は朱色の顔料を塗っているように鮮やかで、少しも曲がっている所がなく、周囲にまで照り映えて、髪を結い上げ端正な御様子で、おっとりと物思いにふけるように外に視線を向けては琴を弾いていらっしゃる。この国でこんな美しい場面に出会うのかと、（中納言は）驚き呆れるほどに感じられる。

日本の女性は、髪がそのまま下に垂れ、額髪も縒って前にかけ垂らしなどしているのが、我が国向きに、親しみやすくしっとり落ち着いていることだと、思い出すにつけて、（こちらでは）きちんとしていて、簪で髪を結い上げられているのも、（后の）人柄が気品あるからであろうか、この方こそ申し分なく、とりわけ美しい姿だよと見るにつけ、琴の音色までがこの世に知らぬほどすぐれて聞こえるときに、若い女房七、八人ほどが、天下ったという天女の姿はこうであったかと見受けられて、菊の花を手でもてあそびながら、「蘭蕙苑の嵐の」と若々しい声の調子を合わせて（詩を）吟じているのが、新鮮に聞こえる。御簾の内にいる女房たちも、「この花を開けて後」と口ずさんで吟じるのである。特に（唐土の）男性は和歌を詠むようだが、女性は詠むことができないのか、花を見ても漢詩を吟じ合っているなあと、（事実を）知りたくなったのに、后は、御簾を下ろして中へ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

お入りになってしまった。（中納言は）物足りなく中途半端で、半分欠けている月を見るような気持ちがするので、我慢できず花の咲いている所へ歩み出たが、それを（女房たちが）ひどく呆れて驚いている様子はない。少人数で、半分隠れるように座っている（女房の）所に、（中納言が）花を手に取ってお立ち寄りになって、

ふるさとを…＝故国〔＝日本〕を恋しく思うせつない私の心を忘れるのは、こちらで美しい花ばかりでなく美しい皆さんを見てしまったこの夕べであるのだなあ。

と、試しに（和歌を）詠みかけてみると、（女房が）団扇を差し出して、そのまま持って（花を）受け取る様子は、我が国の女性と違わない。

枯れでさは…＝花が枯れないで、そうおっしゃる通りいつまでも照り映えて美しく咲いていてほしいものです。故国を恋しがる人がいませんように。

と応答する声には、（唐土の女性も和歌を）詠まないのではなかったよと、興味深くお感じになる。

皇子がお出ましになったので、（中納言は）いずまいを正しなさった。「気分が晴れ晴れとする夕べだ」とおっしゃって、御琴など楽器を取り出して（中納言に）お与えになることだよ。先ほど見た（后の）心に浮かぶお顔のすばらしさは、名残の薫物の匂いまで、自分の体にしみ込んでしまう気がして、（后の弾いた）琴の音色の美しさまでもが耳に残っているようで、（中納言は、自分が）どう弾いたらよいかわからない。后も御簾の近くで、（中納言を）じっと御覧になるにつけて、万事に申し分なく抜きん出た人だなあ、この人が（日本へ）帰ってしまった後には、お目にかかれなくなってしまうのは悲しいことだと、人知れず涙が落ちるようにお感じになった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕　※「敬語」の「重要単語」は、文法講座で既出のため、省いています（第二講以降も同様）。

○おぼゆ【覚ゆ】…〔自動詞〕①**自然に思われる**。②思い出される。③**似る**。④（他人から）思われる。
〔他動詞〕①思い浮かべる。②記憶する。③思い出して語る。

○あいぎゃう【愛敬】…①**温和でやさしく魅力的なこと**。②顔かたちがやさしくかわいらしいこと。

○にほひ【匂ひ】…①**色が美しく映えること**。②かおり。③威光。
④染め色の色目で、上から下へしだいに薄くぼかしていくようにしたもの。

○うるはし【麗し・美し・愛し】…①りっぱだ。美しい。②**きちんとしている**。端正だ。③格式ばっている。
④親しい。⑤由緒正しい。

○あさまし…①**驚きあきれるばかりだ**。②興ざめだ。③話にならない。④ひどい。⑤品性がいやしい。

○なつかし【懐かし】…①**心がひかれる**。**慕わしい**。②**親しみやすい**。③昔が思い出されてなつかしい。

○なまめく【艶く】…①若々しく美しい。②優美である。③もの静かで落ち着いている。④色っぽくふるまう。

○ふみ【文】…①書物。②**手紙**。③**学問**（特に**漢学**）。④**漢詩**。

○なかなかなり【中中なり】…①**中途半端だ**。②**かえって**。

○けしき【気色】…①**様子**。②趣。③**態度**。④**意向**。⑤**機嫌**。

○あかず【飽かず】…①**物足りなく**。**名残惜しく**。②飽きないで。

○つきづきし【付き付きし】…**似つかわしい**。**ふさわしい**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　解答解説

〈解説〉

① 「つきづきし」は重要単語。「似つかわしい、ふさわしい」の意味。よって、正解はニ。

② 「いと竹」の「いと」は弦楽器、「竹」は管楽器、「いと竹」で音楽のこと。よって、正解は「演奏技術」のホ。

③ Ⅰの三句目「忘れずは」の「忘れ」、四句目「恋ひむ涙の」の「恋ひ」、Ⅱの四句目「君に知られで」の「知ら」と「れ」。以上四つが未然形。よって、正解はホ。ちなみに、「忘れずは」の「ずは」は、打消の助動詞「ず」の連用形＋係助詞「は」である。

④ 「る・れ」の識別。設問はu段に付いているので、上からの一部。この場合は、下二段動詞「忘る」の連体形「忘るる」の一部。選択肢ニが同様に、上がu段で、下二段動詞「覚ゆ」の連体形「覚ゆる」の一部。よって、正解はニ。ちなみに、イとホは完了の助動詞「り」の連体形。ロは、過去の助動詞「けり」の連体形「ける」の一部。ハは、完了の助動詞「たり」の連体形「たる」の一部。

⑤ 「なむ」の識別。四段動詞「入る」の連用形に付いているので、強意＋推量の確述用法。よって、正解はニ。

〈解答〉

① ニ　② ホ　③ ホ　④ ニ　⑤ ニ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。